



企画にあたって

山崎直仁 (高知大学医学部老年病・循環器内科学 准教授)

循環器領域は、身体所見から得られる情報がきわめて多い。心臓は全身へ血液を拍出する動的な臓器であるため、頸静脈、頸動脈、心尖などの各種の拍動と、心音、心雑音は体内血行動態を反映しており、そこから循環に関する情報を読み取ることができる。心臓は、その状態を、身体所見を介して、われわれに語りかけてくれているということができる。循環器の身体所見には、先人達が積み重ねてきた深遠な知の世界がある。一方で、循環器身体所見は書き換えられることのない古典ではなく、いまだわからないことも多く、現在でも新しい知見が生まれてきている。テクノロジーが高度に発達した現代医療においても、身体所見を学ぶことには意義があると考ええる。

本特集では、臨床現場で実際に役に立つ循環器身体所見に関する知識をまとめることを企図している。身体所見についての新しいエビデンスについては、主に「Expertise」で取り上げるようにした。執筆いただいた先生方は、循環器 Physical Examination 講習会で講師を務められている身体所見のエキスパートの先生方である。

本誌を読まれた読者の方々が、循環器の身体所見に興味をもち、得られた知識をベッドサイドで活用されることを期待している。